

一般財団法人 運輸総合研究所

モビリティシンポジウム

「モビリティサービスの明日～その課題と可能性を多面的に考察する～」

「今向から未来、十勝バスが考える真の生活MaaS」

十勝を、もっと安心、ぐっと楽しく、ずっと健康に

私たちはいつも身近な存在として、
皆さまに生活の安心を届けます。

弊社は健康経営に取り組み、従業員の健康維持と体力増進を目指します。

TOKACHI BUS CORPORATION



令和4年3月28日(月)

十勝バス株式会社

代表取締役社長 野村 文吾

1. アナログ重視の 「真のMaaS」

1. アナログ重視の「真のMaaS」

* 「お客さま目線」を基本にした原則の徹底

• ITやAIの時代だからこそ、アナログの強みを

「お客さま目線」こそアナログ
「アナログ」のIT化こそ
真のMaaS



1. アナログ重視の「真のMaaS」

* 「お客さま目線」を基本にした原則の徹底

・ ITやAIの時代だからこそ、アナログの強みを

「お客さま目線」こそアナログ
しっかりとした「リアルな足掛かり」が無ければ
「デジタル」は機能しない 真のMaaS

アナログとデジタルの融合

2. コロナ禍の 「今向から未来」

2. コロナ禍の「今向から未来」

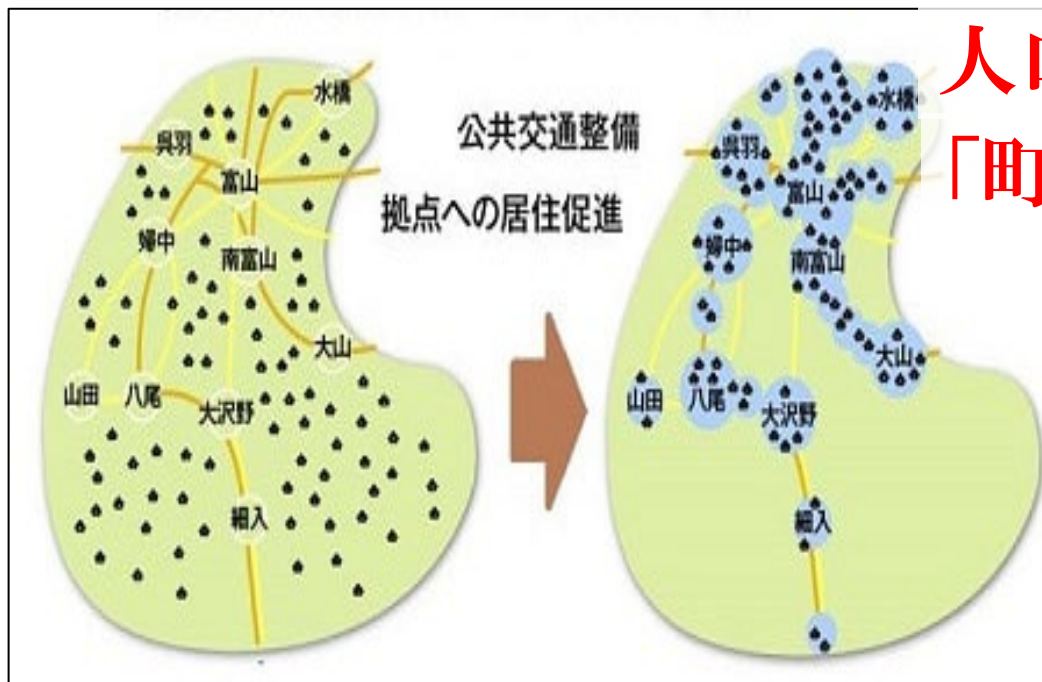
(1) セグメント×深掘り

＝「ミクロ戦略」

挑戦！

* ① マイクロ「コンパクト＋ネットワーク」で街づくり！

・ 市民にとっての最善の生活環境を整備する



人口減少・移動総数減少
「町内会づくり」から始める



2. コロナ禍の「今向から未来」

(1) セグメント×深掘り

＝「マイクロ戦略」

挑戦！

* ① マイクロ「コンパクト＋ネットワーク」で街づくり！

・ 市民にとっての最善の生活環境を整備する

全ての生活サービスを集中投入



2. コロナ禍の「今向から未来」

(1) セグメント×深掘り

＝「ミクロ戦略」

挑戦！

* ① マイクロ「コンパクト＋ネットワーク」で街づくり！

・ 市民にとっての最善の生活環境を整備する

全ての生活サービスを集中投入



・ 面積:約1km²(約1km四方)・帯広市街に位置する一戸建て住宅地・人口4,300人・近年子育て世代の流入・小中学校統合後に跡地宅地開発 8

2. コロナ禍の「今向から未来」

(1) セグメント×深掘り

＝「ミクロ戦略」

挑戦！

* ① マイクロ「コンパクト＋ネットワーク」で街づくり！

・ 市民にとっての最善の生活環境を整備する

全ての生活サービスを集中投入

「町内会づくり」×複数→「街づくり」

真の生活MaaS

2. コロナ禍の「今向から未来」

(2) 小さな流れが、次第に速く大きく

* ① 様々なステークホルダーが動き始めた

・国土交通省のコロナ後の地域交通の政策に！

2021年7月19日(月) 東京交通新聞

国土交通省 総合政策局
地域交通課長 倉石誠司氏

キーワード
「共創」

「新型コロナウイルスの経験を経て、地域コミュニティはますます、範囲2キロくらいの小集積になる。地域づくり・まちづくり、暮らしの満足度を第一に据え、住民目線で取り組みたい。家族、ウェルビーイング(心身の幸福)、介護・福祉、教育などテーマはいろいろとある」と基本姿勢を示す。地域の公共交通とまちづくりの一体化が促進されそうだ。



横顔
国土交通省総合政策局
地域交通課長
倉石誠司氏

旧運輸省ポストの総合政策局地域交通課長に、前身の交通支援課長を含めて初めて旧建設省出身者が就いた。「今回の人事にはびっくりした。でも、うれしかった。意気を感じている」とは本人の弁。「地域づくり・まちづくりは私のライフワーク」と言い、地域の公共交通とまちづくりの一体化が促進されそうだと、経験を経て、地域コミュニティワーカール（社会）

ユニティはますます、必要不可欠な労働者の範囲2キロくらいの小集積、公共交通、バス・タクシーになる。地域づくり、暮らしの事業者の方々にはまちづくり、暮らしの満足度、手を尽くしていただく。第一に据え、住民目線と支援していく。その線で取り組みたい。家族、上で、全体を俯瞰し、ウェルビーイング(心身の幸福)政策としても、あるべき姿を考えた」と力を込める。

前組織は不動産・建設経済局に詳しい。

でも、官房略歴 1999年旧建設省に入り、兵庫県警交

系や出向、兵庫県警交通部交通指導課長、京都府政策企画部戦略企画課長、官房人事課企画官、不動産・建設経済局参事官など歴任、7月から現職。早稲田大政経学部、職根県出身、45歳。

2. コロナ禍の「今向から未来」

(2) 小さな流れが、次第に速く大きく

* ① 様々なステークホルダーが動き始めた

・国土交通省のコロナ後の地域交通の政策に！



地域の暮らしを創る 持続可能な交通の実現

～アフターコロナ時代へと向かう『地域交通3.0』～

令和4年3月14日

国土交通省 総合政策局
地域交通課長 倉石誠司



公共交通利用促進ゆるキャラ
のりたろう

3月19日(月) 東京交通新聞

地域の暮らしを創る持続可能な交通（地域交通3.0）

快適で心地よい暮らしの実現のため、地域の暮らしにかかわるプレイヤー間で、境目（エッジ）を超えた議論・共創を加速していくべきではないか。

地域コミュニティは、
未来へ向けた新たなインフラ。



2. コロナ禍の「今向から未来」

(2) 小さな流れが、次第に速く大きく

* ① 様々なステークホルダーが動き始めた

・さらに、生活サービスを集中投入！政策に！



2. コロナ禍の「今向から未来」

(2) 小さな流れが、次第に速く大きく

* ① 様々なステークホルダーが動き始めた

・さらに、生活サービスを集中投入！政策に！



「信頼」を育て「おでかけ」機会を提案！



宅配事業
キリン便



飲食事業にくや大空
× コミュニティカフェ



2. コロナ禍の「今向から未来」

(2) 小さな流れが、次第に速く大きく

* ① 様々なステークホルダーが動き始めた

・さらに、生活サービスを集中投入！政策に！

しっかりとした「リアルな足掛かり」が無ければ
「デジタル」は機能しない

「信頼」アナログとデジタルの融合案！

真の生活MaaS

宅
麒麟便

× コミュニティカフェ

一般財団法人 運輸総合研究所

モビリティシンポジウム

「モビリティサービスの明日～その課題と可能性を多面的に考察する～」

「今向から未来、十勝バスが考える真の生活MaaS」

ご清聴、ありがとうございました

十勝バス株式会社 代表取締役社長 野村 文吾